

くらいよるサ

場面

1 宵口

2 夜半

3 Midnight Net Cafe

4 未明

人物（登場順）

トミオカ……平吹敦史

スガ ……大間剛志

セオ ……佐野恵海

シモダ ……津田タカシゲ

カキタ ……辻川幸代

ヒロシ ……関藤隆治

ヌマタ ……村田与志行

マルイ ……川崎桜

ミュキ ……浅季愉女美



スガ あっ、  
セオ 粉砂糖。  
トミオカ トッピング？  
セオ はい。  
スガ 嘘つけ。デリバリーの振りして、クスリ運んでる奴がいるって。君がそうか、運び屋か。  
セオ へへへ。  
トミオカ 楽観主義者はドーナツを見る。(紙袋からドーナツを出し) 悲観主義者は、ドーナツの穴を見る。  
スガ オスカー：なんだっけ？  
トミオカ ワイルドだろ。穴、それ(双眼鏡)で見えてみな。  
三人 男(シモダ)が来る。手にタバコ。  
シモダ 坊やたち、火、貸してくれない？  
…  
シモダ なくしちゃって、デュポンのライター。  
トミオカ …持つてない。  
スガ 俺も。  
シモダ (セオを見て) あ、坊やじゃない？  
セオ はあ。  
シモダ (スガに) 似合うね、双眼鏡。  
スガ え？  
シモダ 覗きのプロって感じ。  
スガ なに言ってるの。  
シモダ いま向こうに、エッチそうな熟年カップルいてさ、  
スガ は？  
シモダ 車止めて、中でイチャイチャ。  
トミオカ 車？  
シモダ うん。  
トミオカ どこに(いた)？  
シモダ 図書館の裏の道。  
セオ あ、ジープみたいな…  
シモダ そうそう。みんなで見に行かない？  
トミオカ は？  
スガ 行かないよ。  
シモダ アレかもよ、車中不倫？(セオに) ね。  
セオ …(さあ)  
スガ 一人で行けば。  
シモダ え。(スガに) それ(双眼鏡)貸して。  
スガ やだよ。  
トミオカ 一人で行けば。

シモダ …(なんだよお)  
シモダ、去る。  
スガ …また来ちゃった。  
トミオカ うん。  
セオ なんですか？(今の人)  
スガ (会うの)初めて？  
セオ はい。  
トミオカ 最近よく現れる、風変わりなおじさん。  
セオ メンバーですか？  
トミオカ メンバー？  
セオ 「朝日を見る会」  
スガ いやいや。  
トミオカ (トミオカに)リーダー、  
スガ え？  
セオ やっぱりその名前やめない？  
スガ ああ、「桜を見る会」みたい？  
セオ うん。  
トミオカ この公園、高台にあるから、よく見えそう。  
セオ え？  
トミオカ いや、私も今日、ていうか明日か、見よっかなって。  
セオ 朝日？  
スガ いいですか？一緒に。  
セオ 朝までどうすんの？  
スガ 配達してます。  
セオ 仕事あんの？  
スガ 都心は24時間営業。  
セオ へえ。  
トミオカ でも朝日浴びて元気になろうとか、そういうの期待してる？  
セオ え？  
トミオカ そういうのとは、全然違う。  
スガ 違うんだな、これが。  
セオ じゃあ、どういう？  
カキタ カキタが来る。手に(練習用の)マイク。  
トミオカ こんばんは。  
カキタ どうも。  
スガ どうも。暑いわね。  
カキタ お帰りですか？  
セオ ちよっと休憩。(セオに)こんばんは。暑いわね。  
カキタ あ、(会釈)  
エッセンシャルワーカーですね。ご苦労様です。

セオ いえ…（そちらこそ）いつもお疲れ様です。  
カキタ え？

セオ 毎日向こうで、お一人で、  
カキタ あ…お恥ずかしい。カキタと申します。  
セオ セオです。

カキタ 独り言じゃないですよ。練習なんです、街頭演説。  
セオ 演説？

カキタ 議員をちよつと、アレなんです。  
セオ 議員さん？

カキタ ンフフ。  
セオ へえ。

トミオカ 違うでしょ。  
スガ （セオに）勉強中。

セオ ？  
トミオカ 議員を、目指してる。

セオ ああ、（なんだ）  
カキタ 私、職場が銀座の方で、

セオ はい。  
カキタ 去年、たまたま見ちゃって。IOC、バツハ会長。  
セオ ？

カキタ 銀ブラで、ほら、  
セオ …ああ、

カキタ あの人ホントなんなの？って思ったんだけど、それを周りにいた日本人が、へらへらスマホ撮ってるの。  
セオ ありましたね。

カキタ いまの世の中やっぱりおかしい、絶対変えなきゃって思って、一念発起、政治の世界を。  
セオ それがきっかけ？

カキタ そう。  
セオ 最近ですね。

カキタ たった3日。あの人、来日した時の隔離期間。  
セオ はあ。

カキタ 他の人みんな二週間も我慢してんのに、  
セオ はい。

スガ ヒロシが来る。カラーコーンで作った看板を持っている。  
セオ おお。

ヒロシ どうも。暑いね。  
トミオカ 今日、営業すんだ。

ヒロシ うん。（カキタに）お久しぶりです。  
カキタ あら。

スガ 閉めたかと思ったよ。  
ヒロシ ちよっと（閉めるのも）考えたけど、まあうちの店も、ファンがいるんで。  
トミオカ 俺たちみたいなの。

ヒロシ、ポケットからピンク色の風船を出して膨らませ、看板に付ける。

（看板には「懐エロの店 この先←」と書かれている）

漫画、「やるつきや騎士」入荷したよ。

ヒロシ ウソ。

ヒロシ 全11巻。

トミオカ 買おっかな。

スガ 俺、「シエイプアップ乱」が読みたい。

ヒロシ あるよ。

スガ ウソ。

ヒロシ 全14巻。

スガ 買おっかな。

セオ （看板を見て）懐エロ？

カキタ 懐かしのそういうの、置いてるお店。

ヒロシ 深夜限定、不定期営業。

カキタ やあねえ。

ヒロシ （カキタに）モックンのヘアスード、篠山紀信。入荷しました。

カキタ ウソ。

ヒロシ いかがですか？

カキタ ん：

トミオカ でも紀信の写真、白黒多い。

スガ そうだね。

トミオカ 芸術性？

スガ 余計だよね。

ヒロシ 高岡早紀のも、そうだよね。

トミオカ そう。

スガ イマイチだった。

シモダ、さりげなく現れ、

シモダ CDとかも置いてんの？

ヒロシ え？

シモダ 気になってたんだ、その看板。

ヒロシ ああ、どうも。

シモダ 原爆オナニーズのCD聴きたい。

ヒロシ は？

シモダ 知らない？

ヒロシ いや、

カキタ 知ってる。略して「原オナ」

シモダ そう。

ヒロシ それ、エロですか？  
シモダ え？  
カキタ パンクよね？  
シモダ そう。  
ヒロシ 置いてないですね。  
シモダ ないの？ 原オナ。  
ヒロシ はい。  
シモダ えー。  
ヒロシ すいません。好きだったアイドルとか…？  
シモダ え。  
ヒロシ カレンダーありますよ。宮沢りえのふんどしとか。  
シモダ おお。  
トミオカ 田村英里子は？  
スガ 半ケツだ。  
トミオカ そう。  
ヒロシ あるよ。  
トミ・スガ おお。  
カキタ それ何年？  
ヒロシ 1990年。  
カキタ おお。  
シモダ 聞いていいかな？  
ヒロシ はい。  
シモダ 聞きにくいんだけど、(カキタとセオを指し) レディーの前で。  
カキタ あら、どうも。  
セオ お構いなく。  
シモダ 小林ひとみ(置いてる?)。  
ヒロシ (当然)ありますよ。  
トミオカ 桜樹ルイ。  
スガ あいだもも。  
ヒロシ あるある。  
シモダ 白石ひとみ。  
ヌマタ (作業服姿)、さりげなく現れ、  
ヌマタ 樹まりこ。…失礼します。  
シモダ (トミオカたちに、小声で) 誰？  
トミ・スガ (さあ)  
ヌマタ、手に二つのぬいぐるみを持っていて、隅の方に置く。  
ヌマタ (去ろうと)  
カキタ ちよっと、  
ヌマタ (止まる)  
カキタ なにしてるんですか？

ヌマタ  
カキタ  
え？  
ゴミをちよつと。

ヌマタ  
カキタ  
（捨てたぬいぐるみを指し）ナマケモノかな。（二つめを見て）この茶色いコ、何だ  
っけ？

カキタ  
ヌマタ  
公園です、ここ。  
はい。

カキタ  
皆  
ダメでしょう？（周りの皆に）ね。  
（うなづく）

ヌマタ  
カキタ  
…すぐそこ（公園の近く）にでっかいボロマンションありますよね？  
…はい。

ヌマタ  
カキタ  
こんど建て替えて取り壊すんです。なんで、皆さんいま引越しを。ゴミがいっぱい  
出るんです。

カキタ  
ヌマタ  
はあ。  
ゴミ置き場にもう、あふれちゃって。

カキタ  
ヌマタ  
…で、ここに？  
いったん仮置き。

カキタ  
ヌマタ  
仮置き？  
いっぺんに運べないんで。

カキタ  
ヌマタ  
じゃあ、ちゃんと後で撤去するんですね？  
…さあ。

カキタ  
ヌマタ  
は？  
「さあ」ってなんだ。

トミオカ  
スガ  
なんだ。  
なんだ。

ヒロシ  
セオ  
なんだ。  
なんだ。

ヌマタ  
カキタ  
シモダ  
…マンションの人らが依頼した業者があつて、うちは、その下請けなの。仮置き  
も上の指示でやってるんで、クレームつけられても困るんだよ。

シモダ  
カキタ  
シモダ  
なに言ってるんだっ。  
クレームじゃないでしょっ。

シモダ  
カキタ  
シモダ  
不法投棄っ。  
ヌマタ、ベンチの下に置かれていた刀を拾って、抜く。

皆  
！  
ヌマタ、刀を振り回す。

カキタ  
皆、逃げるが、シモダとカキタは逃げ遅れる。  
シモダ、自分の身を守ろうと、カキタを自分の盾にする。

カキタ  
（斬られ）うああ。（倒れる）  
ヌマタ、刀を戻し、去る。

スガ  
あああ。  
逃げた四人、戻ってきて、

トミオカ カキタさんっ。  
ヒロシ あああ。  
シモダ この人、とっさに俺をかばってくれた…  
セオ え…  
シモダ ありがとう…  
カキタ (起きる)  
四人 おお。  
カキタ …みんな、ひどい。  
トミオカ いやいや、逃げた訳じゃないですよ。  
スガ びっくりしちゃって。  
ヒロシ よかった、生きてて。  
セオ はい。  
カキタ (シモダに) あんたさ、  
シモダ え？  
カキタ なんなの？  
シモダ いやいや、モノホンの訳ないじゃん、刀。  
トミオカ まあ、そうだよね。  
スガ びっくりした。  
セオ はい。  
シモダ 落ち着いて。  
カキタ もう…  
トミオカ でも斬られっぶり、  
スガ 見事でした。  
カキタ なに言ってるの。  
ヒロシ (ぬいぐるみを見て) これ、何だっけ？  
カキタ え？  
ヒロシ さっきの人が捨てた、これ。(ナマケモノではない方)  
トミオカ あ、何だっけ？  
スガ 映画だよね？  
シモダ 何だっけ？  
トミオカ えー(出てこない…)  
カキタ 分かった。  
シモダ 待って。ここ(のど)まで出てる。(自分で)思い出す。えー、  
カキタ 「グレムリン」  
スガ そうだ。  
シモダ もうっ。  
カキタ ふんっ。  
ヒロシ それ、タイトルでしょ？ このコの名前、何だっけ？  
トミオカ …何だっけ？

セオのスマホから、チャイム音。

セオ (スマホを見る)

カキタ あー(名前が出てこない)、

スガ ギズモ…?

トミオカ そうだ。

ヒロシ そうそう。

カキタ そう。(ヒロシに)ちよつといい?(ぬいぐるみを渡してもらい)ああ(懐かしい…)

たしか水かけられると狂暴になんの。でもかわいい。(セオに)ね。

セオ だまって。

カキタ (え)

シモダ デリバリー?

セオ 依頼来ました。牛丼だ。

シモダ へえ。松屋?

セオ いや。(バッグを背負い、トミオカとスガに)それじゃあ、後でまた。

スガ え、ホントに来る?

セオ はい。

スガ じゃあ4時半過ぎに。

セオ 了解です。

トミオカ 気を付けて。夜中だし。

セオ はい。いつてきます。

トミオカ いつてらっしゃい。

シモダ 吉牛?

セオ はい。

セオ、去る。

ヒロシ 日の出、4時何分?

スガ 50分。

トミオカ 来る?

ヒロシ いや、(どうしよう)

カキタ 彼女(セオ)も来るの?

トミオカ はい。(スガに)マルイさん、友達連れて来るかもって。

スガ そう。

カキタ あ、よく来てる女の人?

トミオカ はい。

スガ カキタさんもどうですか?

カキタ 私はいい。

シモダ 何の話?

ヒロシ (空を見て)でも天気いいな。

トミオカ うん。

ヒロシ 店ヒマだったら来るよ。

トミオカ そう。

シモダ ねえ、何の話?

カキタ みんなで、朝日を見るんだって。  
シモダ ……なんで？  
カキタ 癒されたいんでしょ？  
トミオカ いや、別に。  
シモダ 「瑠璃色の地球」？  
トミオカ は？  
カキタ 聖子ちゃん？  
シモダ (歌い出す) 夜明けの来ない、  
シモ・カキ 夜は無いさ。  
ヒロシ 作詞、松本隆。  
シモダ 朝日見て、感動するんだ？  
トミオカ 違いますよ。  
スガ 違うんだな、これが。  
ヒロシ 和久井映見？  
スガ そう。  
ヒロシ (看板を持ち) じゃ、俺も仕事に。  
トミオカ 行ってらっしゃい。  
ヒロシ、去る。  
シモダ (朝日) なんて見るの？  
スガ ……「夜明け前の暗い時間って好きよ」  
トミオカ 「清潔で使いみちがないからね、きつと」  
シモダ ……なにそれ？  
スガ 『ハードボイルド・ワンダーランド』  
トミオカ 村上春樹。  
カキタ 小説の台詞？  
スガ はい。  
シモダ ……ハルキか。  
トミオカ え？  
シモダ あいつ、ちょっと、いけ好かない。  
トミオカ なんで？  
カキタ 分かる。ちょっとカッコつけてる？  
シモダ うん。一冊だけ読んだんだけど、エッチばかりやってたよ。  
カキタ ウソ。  
シモダ エッチの描写も、カッコつけてる。  
カキタ え。タイトルなに？  
シモダ 忘れたけど、ホントにエッチばかり。  
カキタ (まあ)  
スガ そうだ。(シモダに) エッチな、熟年カップルは？  
シモダ え？  
スガ ジープに乗った。

シモダ ああ。二人でなんか食ってた、スプーンで。  
スガ え？  
シモダ カレーのテイクアウト？  
トミオカ カレー？  
スガ 不倫っぽい？  
シモダ かもね。  
カキタ 何の話？  
シモダ 車中不倫。  
カキタ えっ？  
シモダ いや、なんかそんなカップルが、向こうに。  
カキタ …どこ？  
シモダ 見に行く？  
カキタ いやいや、  
シモダ 行こうよ。こっちこっち。(見に行こうと)  
カキタ え。ちよっと、やめなさい。  
シモダ、去る。カキタもそれに続く。  
スガ …行っちゃった。  
トミオカ うん。…ドーナツ食べる？  
スガ ああ、  
トミオカ 小腹へったな。  
スガ いや、(外に向かって、双眼鏡を覗く)  
トミオカ え？  
スガ 近くにすき家あったよね？  
トミオカ すき家？  
スガ うん。  
トミオカ あったつけ？  
スガ たしか。  
トミオカ なんて？  
スガ なんか、牛丼食べたい。  
トミオカ ああ。…カレー食べたい。  
スガ (すき家を確認し) 発見。  
トミオカ …牛あいがけカレー、  
スガ いいね。  
トミオカ (食べに) 行く？  
スガ うん。

二人、去る。  
転換。

## 2 夜半

HIS「夜空の誓い」が流れる。

マルイ、ナマケモノのぬいぐるみを持って、立っている。

ミュキ、(非常に遅い速度で)走りながら、現れる。

(走り止めて)こんなもんかな？

もつと(遅く)じゃない？

もつと？

マルイ スピードたしか、人間の10分の1。(スマホを出し、ナマケモノのウイキペディア

を確認)えー、

あ、(積まれた物のなかに)なんか発見。

うん、時速140m。

え、(遅い)：(ヨーヨーを拾う)

ナマケモノは餌をほとんど食べないため、風から栄養を摂ると昔は考えられていた。

風を食べる：(ヨーヨーで遊ぶ)

ほほ：

え？

一日の睡眠時間、20時間。

あら。

ホントに怠け者ね：

でもその呼び方、失礼かもね。

え？

それが彼らのペースな訳でしょ？怠けてる訳ではない。

まあ、人間の基準だもんね。

そう。(ヨーヨーを手に)おまんら許さんぜよっ。

ナンノちゃん、

(ナマケモノは)そう思ってるよ。

スケバン刑事：(懐かしい)

：マルイさんって、スケバンだった？

いや、そんなに。

髪の毛、脱色しなかった？

ちよつとやった。

ビールとかで？

オキシドール。

ああ。

学生カバン、つぶさなかった？

革のカバン？

熱湯かけて、

柔らかくして、

上から座って、

ペチャンコカバンね。

マルイ 持つところにテープ巻いてるヤンキーいたよね。  
ミュキ 赤いテープは、  
マルイ 喧嘩売ります。  
ミュキ なんか(そういうヤンキールール)あったね。  
マルイ うん。チョコ食べる？  
ミュキ うん。(もろう)  
ミュキ、ベンチに寝そべり、スマホで空を撮影。  
マルイ ?  
ミュキ 星空を(撮った)。  
マルイ ああ。  
ミュキ :いとこの兄ちゃんが高校の頃ヤンキーだった。卒業して更生したけど。  
マルイ そう。  
ミュキ その兄ちゃんの話なんだけど:バイクが好きで、友達とよくツーリング行ってたの。  
マルイ うん。  
ミュキ それで、朝日を見に行こうって、山にツーリング行っただけど、頂上に着くちょ  
っと前に、朝日が昇り始めたらしくてさ、  
マルイ うん。  
ミュキ :そこでちゃんと止まって、バイクから降りて、見ればよかったのに、脇見運転:  
マルイ ::  
ミュキ バイク乗ったまま、道から落ちた:  
マルイ え:  
ミュキ まだ26だった。優しい人だったのになあ。  
マルイ ::  
ミュキ その兄ちゃんのこと考えると、なんていうか、不思議な気分になる時あって、  
マルイ 不思議?  
ミュキ いや、うまく言えないんだけど、  
マルイ うん。  
ミュキ 若くに亡くなった人って、なんかこう:詰まってる感じがしない?  
マルイ (詰まってる?)なにが?  
ミュキ :いのち?  
マルイ え?  
ミュキ 詰まってる、ちゃんと完結してるっていうか:  
マルイ ::  
ミュキ まあ、人によるかもだけど。  
マルイ 完結:  
ミュキ うん。  
マルイ たとえば、尾崎とか?  
ミュキ 尾崎豊?  
マルイ うん。  
ミュキ ああ:  
マルイ

マルイ  
尾崎がもしまだ今も生きてて、ずっと歌い続けてたとしても、あの頃を超えられな  
いんじゃないか…みたいなこと？

ミユキ  
そうかな…

マルイ  
…私、ライブ行ったことある。

ミユキ  
尾崎？

マルイ  
うん。

ミユキ  
え、すごい。

マルイ  
そのライブ、飛び入りゲスト、岡村ちゃん。

ミユキ  
岡村靖幸？

マルイ  
そう。

ミユキ  
え、「だいすき」歌った？

マルイ  
歌った。(歌う)君が大好き、

ミユキ  
(空を見て)この星空より、大好き、

マルイ  
甘いチョコよりも、

二人  
女の子のために今日は

カキタが来る。

三人  
歌うよ。

カキタ  
マルイさん、

マルイ  
ああ。

カキタ  
こんばんは。

マルイ  
どうも。

カキタ  
どうもどうも。

続いて、シモダが来る。

シモダ  
要するに、我々庶民を国がどう考えてるかを反映してる訳なんだよ。

カキタ  
なにが？

シモダ  
だから、税金の話。

カキタ  
ああ。

シモダ  
俺、セブンスター吸ってたの。

カキタ  
セツタ。

シモダ  
昔、220円だった。

カキタ  
今いくら？

シモダ  
いやいやもうね、値段が全然覚えらんない。

カキタ  
タバコ税は、まあたしかに。

シモダ  
オリンピックの赤字、俺の税金で埋めたんじゃないの？

カキタ  
気持ちは分かる。使い道の説明ないもんね。

シモダ  
(ミユキを見て、フリーズ) ……

カキタ  
え、(どうしたの?)

シモダ  
シッ。…(ミユキに)ケイちゃん？

ミユキ  
…え？

シモダ  
ケイちゃんでしょ？

ミユキ …？  
シモダ 俺、シモダ。  
ミユキ シモダ…  
シモダ そう。ほら、高校でクラス一緒だった。  
ミユキ ……  
シモダ びっくりした。変わんないね。感動だ…  
ミユキ ……  
カキタ まあ、  
マルイ そうなの？（同級生？）  
ミユキ 私…？  
シモダ うん。  
ミユキ ケイちゃんじゃ、ありません。  
シモダ …ウソ。  
ミユキ ホント。  
シモダ クラス担任がさ、うちら悪いことしたら「メチ！」って。  
ミユキ え？  
シモダ メチ！  
ミユキ …？  
シモダ 女子で初めて、生徒会長やったよね？  
ミユキ …やってみません。  
シモダ …オガワさんでしょ？  
ミユキ いえ。  
シモダ あ、結婚して名字変わった？ 旧姓、オガワケイコちゃん。  
ミユキ 私、旧姓、イデミユキ。  
シモダ ……  
ミユキ 別人ですね…  
シモダ ……  
ミユキ ごめんなさい。  
シモダ …（カキタに）人違いだった。  
カキタ えっ。なにももう、今の時間。  
シモダ いやいやいやいや（まいった）。ズコーって感じ？  
カキタ は？  
シモダ （ミユキに）すみません。似てたもんで。  
ミユキ …生徒会長、  
シモダ はい。ケイちゃんに。  
ミユキ はあ。  
シモダ ズコーって感じ…  
カキタ ズコーって、なんだっけ？  
シモダ え、  
カキタ 藤子不二雄、パーマンだ。

シモダ そうだっけ？

カキタ うん。

マルイ あ…たしかパーマンは、ヘコー。

カキ・シモ ああ。

ミュキ スコーはアレだ。なんだっけ？

マルイ 忍者ハットリくん。

カキ・シモ おお。

ヌマタが来る。(手に、サワラのロング缶)

ヌマタ …(カキタを見る)

カキタ …(気付く)

ヌマタ 先ほどは…(頭を下げる)

カキタ え…

ヌマタ 今日の仕事終わりました、いま軽く飲んでおります。僕は普通の人間と逆で、飲むと気が小さくなるんです。シラフの時の言動を、酔った時に後悔する。すいませんでしたっ。

カキタ はあ…

ヌマタ (シモダに) すいませんでしたっ。

シモダ はあ…

ヌマタ 熱中症対策に、ドライブフルーツのレモン。(ポケットから、むきだしのレモンを出し)

シモダ いかがですか？(カキタに勧める)

カキタ あ、いや(結構です)。

ヌマタ (シモダに勧める)

シモダ あ、いや(結構です)。

ヌマタ …(ポケットにしまい) 僕もたまにやるんですけど、人違って、恥ずかしいですよね。

シモダ えっ、見てたの？

ヌマタ 出身校、なんて高校？

シモダ 祇園北高校。

ヌマタ ん？(知らないなあ)

シモダ 広島県立。

ヌマタ へえ。

カキタ 広島なの？

シモダ うん。

カキタ え？ めったに会わないでしょ、同級生。

シモダ いやだから、ビックリしたんですよ。(ミュキに) ちなみに綾瀬はるかも、そこ通った。

シモダ てた。

ミュキ え。

シモダ でも高校2年の時に、上京で転校したんだけどね。

マルイ へえ。

ヌマタ 僕、福岡、北九州。僕の実家、藤井一子の実家の近所。

シモダ …誰？

ヌマタ ほら、ヒット曲、チエ、チエ、チエ、チェックポイント。実家はね、「ふじいのめんたい子」っていう明太子屋。…（マルイに）ハンディファンですか？

マルイ え、はあ…。

ヌマタ

僕のベスト、こんな感じ。（ファン付きの空調ベストを着ていて、ファンを回す）ふうう。…（マルイとミユキに）そんな、うらやましそうな目で見ないでくださいっ。

マル・ミュ

ヌマタ （シモダに）広島のに、北九州に落とす予定だったって、8月9日。

シモダ ?（話についていけず）ん？

ヌマタ 空が曇ってて、長崎に目標が変わった。

シモダ …原爆の話？

ヌマタ 広島も、平和教育すごかった？

シモダ え？

ヌマタ 平和教育、学校で。

シモダ ああ…体験者の話、聞かされたり、

ヌマタ 映画会とかあったよね？

シモダ あった。

ヌマタ 「はだしのゲン」…（ひどかった）

シモダ ああ…

ヌマタ トラウマになっちゃって。

シモダ 俺も。

ヌマタ 今もちょっとでもグロいアニメ、観れないもん。「鬼滅の刃」も怖くて観れない。

シモダ 先生でさ、「目を背けずにちゃんと観ろ」とか言う奴いてさ。嫌いだったぜ、あの先公。

ヌマタ いた、そういうの。

シモダ そいつ、名札して来るの忘れた生徒の、乳首思いつ切りつねってくんの。

カキタ え、体罰？

シモダ そう。

ヌマタ ちょっと、やってみて。

シモダ ああ。（ヌマタの乳首をつねる）

ヌマタ いたいたいっ。

（体罰とか）そういうの、ひどかったわね。

シモダ 頭おかしいよ。

ヌマタ 話変わるけど、世の中って良くなってると思います？ 全体的に考えて。

シモダ ?（話についていけず）ん？

ヌマタ そういう教師がいま減ってるんだとしたら、それは良いことですよ？

シモダ ああ、はいはい。

ヌマタ 昔はパワハラなんて言葉もなかったし。

シモダ たしかに。

ヌマタ でもそれとは別に、世の中全体を考えて、昔より今が、良くなってると思いますか？

シモダ いや…それは思いませぬね。  
又マタ ね。  
シモダ うん…  
又マタ (飲む)  
シモダ (カキタに) どう？  
カキタ あ…パワーハラスメントの問題？ やつと法律的に防止策が義務化されました。それは良いことですよね。私も賛成。  
又マタ あなたね、  
カキタ え？  
又マタ いま男同士で大事な話してるんだ。  
カキタ え？  
又マタ 女は引っこんでろっ。  
カキタ …問題発言。(マルイとミユキに) ねっ。  
マル・ミユ …(関わりたくない…)  
又マタ あ？  
カキタ 女性蔑視。辞任レベルの問題発言。  
又マタ 俺が何を辞任するんだっ？  
カキタ あ？  
又マタ 少子化担当、もっこり大臣かっ？  
カキタ なに言ってるんだ、お前っ。  
シモダ ストップ。(又マタに) 君は飲み過ぎ。  
又マタ え？  
シモダ それ(ロング缶) 何本飲んだ？  
又マタ これ6本目。  
シモダ なんだ、もっこり大臣で。メチ！(マルイとミユキを指し) 見てほら。  
又マタ マルイとミユキは、隅の方に避難していた。  
シモダ 引いてる…  
又マタ 水、飲み行こ。  
シモダ えー。  
シモダ (女性陣に) ちょっと、この人水飲ませる。(又マタに) 行こうっ。  
又マタ …すみませんでした。  
シモダ、又マタ、去る。  
カキタ なにもう、あいつ、  
マルイ まあまあ。  
カキタ 失礼ね。  
ミユキ 酔っ払いですよ。  
マルイ うん。あ、カキタさん、  
カキタ え？  
マルイ (紹介する) 私の友達、ミユキちゃん。  
ミユキ どうも。

カキタ ああ、どうもどうも。  
ミユキ はじめまして。  
カキタ え、今日は朝日を見に？  
マルイ そう。  
ミユキ 誘われて。初参加です。  
マルイ カキタさんもうどうですか？  
カキタ いや、もう帰って寝ます。  
マルイ ああ。  
カキタ でも寝れるかな。いまのアレで、頭にきてる。  
マルイ 問題発言？  
カキタ うん。  
ミユキ でもいたよね。男子にすぐ、「女の腐ったような言い方するな！」とか言う先生。  
カキタ ああ、体育教官とか。  
マルイ そう。  
マルイ いた。当時、三十代位？ ナントカの世代：  
カキタ 団塊の世代？  
マルイ そう。  
カキタ その世代、そういう人、結構ね（多い）。  
ミユキ はい。  
マルイ セオが（重い足取りで）来て、バッグをベンチに置いて、座る。  
マルイ …私らって、バブル世代？  
ミユキ え…  
マルイ いや、バブル崩壊世代？  
カキタ 氷河期世代？ 就職氷河期。  
マルイ ロスト・ジェネレーションとか、  
カキタ 言ってた。  
ミユキ でもナントカ世代とか、ざっくり言われてもっていうか、  
マルイ なんかやだよ、  
ミユキ うん。  
マルイ なんていうか、私らの世代も、それだけじゃないはずよ。  
ミユキ そうだよ。良いこと言う。  
マルイ なめたらいかんぜよっ。  
ミユキ 夏目雅子？  
カキタ バブルね…私、ハタチだった、  
ミユキ え？  
カキタ 踊ったな…  
マルイ あら（そうなんだ）…  
カキタ （セオに気付き）あら。  
セオ あ、どうも。ちょっと休憩。  
カキタ ああ、お疲れさま。

セオ … 私らも、ゆとりだの、さとりだのって言われてもっていうか、はい。

マルイ … ああ、

ミュキ ねえ。

カキタ いまなにか運んでんの？

セオ コンビニからの配達依頼で、缶ビールとか。

カキタ え、そういうのも配達するんだ。

セオ コンビニ行くのが不便って人に。

カキタ へえ。ちよつと（バッグ）持ってみていい？

セオ はあ。

マルイ コンビニって元々、便利が売りだったよね。

ミュキ 開いてます、あなたのローソン。

マルイ だけでもはや、行く必要もない。

ミュキ なんだろう、便利の上塗り？

カキタ （バッグを持ってみて）重いっ。大変。（下ろす）持って、マルイさん、

マルイ え。（持ってみて）あ、（重いっ）（下ろす）

カキタ ね。

マルイ ミュキ、

ミュキ え。（持ってみて）あ、（重いっ）（下ろす）

セオ … ビールなんで、振っちゃダメ。

カキタ ああ、

マルイ そっか、

ミュキ ごめんなさい。

カキタ この配達キツイわね。

セオ いや、これやる前に、弁当屋の配達があつて、それがキツくて疲れちゃつて。…（ナ

マケモノを手に取り）いやあ、ちよつと休憩…（横になり、ナマケモノに抱きつく）

カキタ 大丈夫？

セオ ……

カキタ ……なにがあつたの？

転換。

### 3 Midnight Net Cafe

ナレーションが入る。

セオの声 「弁当屋から依頼が来て、すぐに向かってピックアップしました。そのドロップ先、つまりお弁当の配達先は、24時間営業で個室を提供している、都心のあるネットカフェ。その205号室。つまり、ネットカフェで夜を過ごす人からの注文というパターンでした。このエピソード、劇中劇でお送りします」

〈ネットカフェ 受付〉

ヒロシ (カフェ店員) がいる。コミックスを読んでいる。

(来客を知らせる) チャイムが鳴る。

ヒロシ いらっしやいませ。

セオが来る。

セオ 失礼します。メニューです。

……

セオ お部屋までお届けします。失礼します。(中へ向かう)

ヒロシ うちにもフードメニューあるんだよっ。

セオ ! (止まる)

ヒロシ カレーメシとかペヤングとか。空腹のお客様にはそちらをご注文いただきたいっ。

セオ え……

ヒロシ 売上横取りしないでほしいっ。デリバリーめっ。

……

ヒロシ ……ごめんね、急に。

セオ え……

ヒロシ 売上、ずっと良くなって。うちの店も大変なんだ…俺、熱い人間だから、つい興奮

しちゃった。ごめんね、急に。

セオ あ、いや……

ヒロシ うちとしてはそう思ってるけど…あなたの方も、仕事だから。

セオ ああ……

ヒロシ 黙認してあげてもいいんだけど、

……

ヒロシ (どうしようかな……)

セオ ……お願いします。

ヒロシ あなた、好きなマンガってなに？

セオ え？

ヒロシ 好きなマンガ。

セオ ……あんまアレ(読まない)ですけど…「東京リベンジャーズ」。

ヒロシ ……問題児はいらねえんだろ？ マイキー。

セオ ?

ヒロシ 場地くんの真似。

セオ 壱番隊長……

ヒロシ ちよつと(俺)似てない？  
セオ 似てます、髪型。  
ヒロシ (ペヤングを出し) 千冬、ペヤング好き？  
セオ …好きっす。  
ヒロシ でも一個しかねえや。  
セオ じゃあ、俺いらないつすよ。  
ヒロシ いや、半分コな。  
セオ おお。  
ヒロシ よかったね、あれ。  
セオ はい。  
ヒロシ あ、「鬼滅の刃」、柱のなかでは、誰が好き？  
セオ え？  
ヒロシ やっぱ煉獄？  
セオ ……  
ヒロシ 胡蝶しのぶ？  
セオ …「鬼滅」あんまり…  
ヒロシ 読んでない？  
セオ はい。  
ヒロシ なんで？  
セオ なんか、人気ありすぎて、引いちゃって、  
ヒロシ (その気持ち) 分かる。コラボとかやりすぎだよな。  
セオ はい。  
ヒロシ 「進撃の巨人」は？  
セオ ああ…  
ヒロシ 読んでない？  
セオ なんかあれ、絵下手じゃないですか？  
ヒロシ え？  
セオ 絵、下手じゃないですか？  
ヒロシ なに言ってるんだ、お前っ。  
セオ え。  
ヒロシ 俺、「進撃」が一番好きなんだよっ。  
セオ すいません…  
ヒロシ デリバリー禁止。帰れっ。  
セオ ……  
セオ スガが来る。  
ヒロシ (セオに) いらっしやいませ。  
スガ お帰りなさい。  
ヒロシ 買ってきた。(冷えピタを持っている)  
スガ おおっ。  
ヒロシ スギ薬局にいっぱい置いてた。

ヒロシ さすが、  
スガ・ヒロ (歌う) スギ薬局。  
ヒロシ 貼りましょ。  
スガ ひんやりするぞオ。  
セオ すいません、  
スガ お待ちください。(ヒロシに) 俺、スギポイント、一万超えた。  
ヒロシ すっげー。  
スガ・ヒロ (冷えピタをおでこに貼り) ふうう。  
ヒロシ スガさん、「○○」って読みました? すごい面白いらしい。  
スガ いやーなんか最近さ、  
ヒロシ はい。  
スガ マンガも、飽き飽きしてきたっていうか、  
ヒロシ なんで?  
スガ 急に、人生の話をしちゃうけど、  
ヒロシ 人生?  
スガ 俺も48年間、人間社会にウンザリしながら、生きてきた部分ってある訳だよ。  
ヒロシ 人間社会?  
スガ マンガも人間のドラマを描いてるよね?  
ヒロシ ああ…泣いたり笑ったり?  
スガ 最近マンガ読んでも、すぐウンザリしちゃうんだ…  
ヒロシ スガさん…  
スガ 年齢としなのかな…  
ヒロシ 老けこむ年齢じゃないでしょ。  
セオ お話中、すいません。  
スガ・ヒロ ?  
セオ (ヒロシに) そう言われても困ります…  
スガ …なに?  
ヒロシ デリバリーです。  
スガ ああ…  
ヒロシ (セオに) だから営業妨害なんだよ。  
スガ ヒロシ、お前バイトなんだから(控えなさい)。  
セオ こいつバイト?  
ヒロシ こいつ?  
スガ (ヒロシに) まあまあ。(セオに) 私、店長のスガと申します。  
セオ ああ。  
スガ デリバリーを認めるかどうか、難しい問題です。ちょっと本部に確認しないと…  
セオ いや、他のネットカフェ、大体大丈夫ですよ。  
ヒロシ うちがダメなんだよ。  
スガ ダメっていうか、私に決定権ないんですよ。

セオ じゃあ、本部に確認していただけますか？  
ヒロシ 夜中は本部やってないよ。  
スガ 明日、朝一で確認しましょう。  
セオ ? 朝まで待つのか？ 困りますっ。  
スガ ……参ったな、  
セオ 行かせてくださいっ。  
ヒロシ 勝手だな、ホント。  
スガ ……配達って、何号室？  
セオ 205。  
ヒロシ 205? (受付に置いてある表を確認する)!(うわ…)  
スガ え？  
ヒロシ いま205にいるの…(スガに表を渡す)  
スガ (確認し)！  
セオ え？  
スガ (セオに) いや、うちにも常連客がいるんだけど、そのなかに何人か…なんていうか、  
ヒロシ クレーマー。  
セオ え？  
ヒロシ あの人なら、配達させないと…  
スガ とんでもないことになるね。  
ヒロシ はい。早く配達させないと…  
スガ うん。(セオに) じゃあ、中へ。案内します。  
セオ はい…  
ヒロシ (セオに) どうぞっ。  
三人、中へと去る。

〈ネットカフェ マンガコーナー〉

コミックスが並ぶ棚が置かれる。

〔「鬼滅の刃」 22巻を手に〕 シモダが来る。

続いて、カキタが来る。

カキタ 待ってよ、もう。

シモダ ンフフ。

カキタ いよいよ最終、第23巻…

シモダ ホントに読む？

カキタ やめる？

シモダ 読む？

カキタ やめる？

シモダ どうする？

カキタ やめる？

シモダ やだあ。読むけど…

カキタ なに？

シモダ 炭治郎、死ぬんじゃない？

カキタ それはないでしょ。

シモダ いやいや、

カキタ ないもんね〜。

シモダ あるもんね〜。

カキタ ないもんね〜。

シモダ あるもんね〜。

カキタ 禰豆子どうなるの？

シモダ 禰豆子はアレ（人間に戻る）だけど…炭治郎は…

カキタ いやんっ。

シモダ 無惨もただではね。

カキタ ホントあいつ憎たらしい。

シモダ 甘露寺さん、生き残ってほしい。

カキタ …好きなの？（嫉妬）

シモダ ンフフ。

カキタ 悲鳴嶼さん、カッコいい。

シモダ …好きなの？（嫉妬）

カキタ ンフフ。

シモダ ンフフ。

カキタ いよいよ最終、第23巻…

以降、同じ話が繰り返される。

雑誌を手に、ミュキが来る。

ミュキ お静かに。

カキ・シモ

ミュキ ……

ここは孤独を愛し、一人の安らぎを得るための場所、ネットカフェ。騒がないで。

カキ・シモ ……すみません。  
ミュキ あなたたち、なに？ カップル？  
シモダ ……はい。

ミュキ 個室を二人で利用してんの？

シモダ あ、ペア割ってというのがありまして、ちょっとお安く。(カキタに) ね。  
カキタ うん。

シモダ すいませぬ、続きが気になって興奮しちゃって。部屋に戻ります。(22巻を柵に置き、23巻を取り出す)

ミュキ 「鬼滅の刃」最終巻、

シモダ ええ。

ミュキ いまごろ読んでんだ。

シモダ ……はあ。

ミュキ 炭治郎、ホントに危機一髪。そしてアレよ、最後に無惨が…

カキタ ストップ！

シモダ シッ！

ミュキ ……フツ。

カキ・シモ ……

ミュキ あんたら、甘露寺と悲鳴嶼が好きなんだって？ 二人はアレよ、激戦の末…

カキタ ばかっ。

シモダ メチ！

カキタ あなた、そういうネタバレが、どれほど罪深いことか分かってんの？

ミュキ 全部言ってる、

カキ・シモ ……

ミュキ 騒いだ罰よっ。

マルイが来る。

マルイ うるさいっ。

ミュキ ……

マルイ なにごと？

ミュキ ……あ、いや、この二人が騒いでて…

マルイ え？

ミュキ ……(カキタとシモダに、マルイを紹介) この店一番の常連、マルイ様。頭を垂れて。

カキ・シモ (頭を垂れる)

マルイ いやいや、あなたも騒いでたじゃない。

ミュキ いや、私は、二人を注意してたんです。

マルイ え？

ミュキ ……

マルイ あなたは私が言うことを否定するの？

ミュキ ……いや、注意してて、私も騒いでました、はい。

マルイ 注文したデリバリーが遅くて、私はいま、不快の絶頂。

ミュキ ……すみませんでしたっ。(逃げ去る)

マルイ                    ∴ (カキタとシモダを睨む)  
カキ・シモ               ∴ (逃げ去る)  
マルイ、去る。

〈ネットカフェ 205〉

スガ、セオ、ヒロシが来る。

ヒロシ (指さし) あのドア、205。

セオ ありがとうございます。

音楽(佐野元春の曲)が聞こえている。

セオ、ドアをノック。

スガ 音漏れしてるね。

ヒロシ あの客、しょっちゅうですよ。

スガ うん。

ヒロシ でも怖くて注意できない…

スガ …注意っていうか、やんわりさ、

ヒロシ え？

スガ 「動画を視聴の際は、ヘッドホンをご利用ください」一緒にお願いしてみない？

セオ、再びノック。

ヒロシ 一緒に？

スガ 俺が「動画を視聴の際はっ」って言うから、ヒロシが、

ヒロシ 「ヘッドホンをご利用くださいっ」

スガ そう。二人で力合わせてさ、

ヒロシ ああ…

セオ いないみたいですネ。

マルイが来る。

マルイ (セオに) デリバリー？

セオ あ、はい。お弁当、お持ちしました。

マルイ 遅いっ。

セオ え…

マルイ (スガに) ドリンクバーのミルクティー、売り切れになってる。

スガ え…

マルイ わざと？

スガ …はい？

マルイ 私がミルクティー好きなの知ってて、わざと？

スガ …いえいえ、

マルイ このコ(ヒロシのこと)、仕事でしょっちゅうマンガ読んでる。

ヒロシ …読んでません。

マルイ 読んでるだろっ。

ヒロシ 読んでます…

マルイ スガさん…(教育が足りない)

スガ 申し訳ありません。謝れ、ヒロシ。

ヒロシ 申し訳ありません。

マルイ (ヒロシに) あなた、私がトイレ行きたいタイミングに、いつつもトイレ掃除してるよね？

ヒロシ え？  
マルイ わざと？  
ヒロシ いや、それは…  
マルイ え？  
ヒロシ たまたま、  
マルイ 長いよ、掃除。  
ヒロシ …丁寧にやってるんで。  
マルイ 違う。(あんたは) とういっ。  
ヒロシ …(傷付く)  
スガ マルイ様、ドリンクバー、すぐに補充いたします。  
マルイ いいわよ、もう。ミルクティーもデリバリーで頼んだから。  
スガ …申し訳ありません。  
マルイ 前の店長もアレだったけど、あなたもアレね。  
スガ ……  
セオ …できたてを、お届けしました。(バックから弁当を出す)  
マルイ え？  
セオ お弁当取りに行った時、まだ調理中だったんで、出来上がるの待ってから配達したんで、すこしお時間掛かったんですけど、はい。  
マルイ …できたてかどうかなんて聞いてない。  
セオ ……  
マルイ 注文してから届くのが遅いという、事実を言ってるの。  
セオ …すいません。  
ヒロシ 俺、この店、辞めます。  
スガ …！ えっ？  
ヒロシ やっぱり接客向いてない…  
スガ なに言ってるんだよ。  
ヒロシ 人手不足なのに、すいません。  
スガ ヒロシっ。  
ヒロシ スガさん、すいませんっ。  
スガ お前はとろくなんかない。気にするなっ。  
マルイ なんなのよ、急に。  
          デリバリーバックを背負ったトミオカが来る。  
          (バックから、ギターのネックがはみ出している)  
トミオカ …(スマホをマルイに向けている)  
マルイ …？ ミルクティー？  
トミオカ あなたの、そのドイヒーな態度、こっさりそこ(奥)で撮らせていただきました。  
マルイ …は？  
トミオカ …(セオに)君、名前は？  
セオ …セオです。  
トミオカ スガさん、ヒロシ、セオ少年、俺が来るまでよく堪えた。後は任せろ。

スガ ? どちらさま?  
トミオカ (マルイに) なんだかミュキが、世話になったそうで。  
ミュキ ミュキが来る。  
トミオカ 私の彼よ。  
トミオカ トミオカだ。  
ミュキ あなたも騒いでるじゃない。  
トミオカ 高圧的なその言動、アウトだね。証拠の画像はここ(スマホ)にある。  
マルイ ……  
ミュキ この店から出てお行きっ。ね、スガさん。  
スガ え…  
ミュキ あなたを追い出して、私がこの店一番の常連になる。  
トミオカ (ミュキに) すごいじゃん。  
ミュキ トップに立つの。  
マルイ おだまりっ。…(スガに) 店の売上に、私がどれだけ貢献したか、分かってらっしやるよね。  
スガ ……  
マルイ 出て行く筋合いなんかない。(ミュキに) この先もトップは私よっ。  
トミオカ (スガに) 出てってもらいましょう。迷惑でしょ?  
スガ え…  
ミュキ はっきり言って。  
トミオカ ご決断を。  
スガ ……そんな決定権ありません。  
ミュキ もうっ。  
スガ 本部に相談しないと…  
トミオカ 本部?  
スガ はい。  
ミュキ スガさん…  
マルイ フツ。いつも言葉を濁すのよ。  
トミオカ 店長だろっ。  
ヒロシ 僕は出て行きますっ。(スガに) 失礼します。(去ろうと)  
スガ ……待ってくれ!  
ヒロシ ……(止まる)  
スガ ……(マルイ、ミュキに) 店長という、責任ある立場だからです。  
マル・ミュ ?  
スガ みんな私に文句ばかり言うけど、私は間違っていない。  
トミオカ ? 逆ギレ?  
スガ 違っっ。  
トミオカ ……  
マルイ どういうことよ?  
スガ ……急に、人生の話をしますけど、

マルイ 人生？

スガ 人は歳を取れば取るほど、社会の網の目からめとられ、身動きできなくなる。  
ミユキ ……大人になるってこと？

スガ 自分が本当に思っていることも、言えなくなる。

トミオカ はあ…

スガ 「自分の言葉で話してない」って私に言うけど、大人はみんなそうでしょう？

トミオカ そうかなあ…

スガ な、ヒロシ。

ヒロシ え…本部のキシダさんは？

スガ 上の言いなり。

ヒロシ シンジロウくんは？

スガ あいつの言葉は、空っぽだ。

ヒロシ たしかに。

スガ マルイ様…

マルイ え？

スガ 音漏れしてらんです。動画を視聴の際はつ、

ヒロシ ヘッドホンをご利用ください。

マルイ ……

スガ よく言った、ヒロシ。

ヒロシ スガさんこそ…

スガ (ヒロシの肩を叩き) 行こう。辞めるなんて言うな。

ヒロシ はい…

スガ、ヒロシ、去る。

音漏れしている曲が聞こえ、

トミオカ ……(この曲) 佐野元春？

ミユキ そうね。

トミオカ この曲なんだっけ？

ミユキ ……「アンジェリーナ」？

トミオカ そうだっけ？

マルイ 「ガラスのジェネレーション」

ミユ・トミ ああ。

ヌマタが来る。(富山の薬売りのように、風呂敷で荷物を背負っている)

ヌマタ (ドリンクの商品を手に) タピオカロイヤルミルクティー。

マルイ はい。

ヌマタ 205のお客様。

マルイ はい。

ヌマタ 失礼します。お待たせいたしました。(商品を渡す)

マルイ ご苦勞様。

ヌマタ ありがとうございます。失礼します。

トミオカ (ヌマタに) すいません、

ヌマタ はい。

トミオカ : 風呂敷使って、配達してんすか？

ヌマタ はい。

ミユキ 個性的。

トミオカ 渋いなあ。

ヌマタ いや。え？ (ギターのネックを指し) それ、なんですか？

トミオカ ああ。

ヌマタ え？ : ギターを持った配達員？

トミオカ まあ。

ヌマタ そんな人、初めて見た。

トミオカ 昔、流しやってたんで。

ヌマタ 流し。へえ。

ミユキ (トミオカに) ねえ、

トミオカ ん？

ミユキ なんか歌って。

トミオカ え、いま？

ミユキ うん。

ヌマタ おお？

トミオカ いや、でも (マルイを見る)、

マルイ : いったん休戦しましょう。歌いなさい。

トミオカ : ああ、そう。 (バックからギターを出す) じゃあ皆で歌おう！

セオ あ、あの : (マルイに弁当を差し出し、渡す)

マルイ ご苦労様。

セオ ありがとうございます。

ミユキ 歌うわよ、セオ少年。

トミオカ (「SOMEDAY」を歌う)

「手おくれ」と言われても 口笛で答えていた あの頃

誰にも従わず 傷の手当もせず ただ 時の流れに身をゆだねて

(途中から全員で歌う。セオはこっそり逃げ去る)

窓辺にもたれ 夢のひとつひとつを 消してゆくのは つらいけど

若すぎて何だか分からなかったことが リアルに感じてしまうこの頃さ

Happiness & Rest 約束してくれた君

だからもう一度あきらめないで まごころがつかめるその時まで

SOMEDAY

転換。

トミオカ、マルイ、ミユキ、カキタ、シモダ、無言で空を見る。  
うっすらと…（明るくなってきた）  
うん。

カキタ 「夜明けの刑事」ってドラマあったよね。

マルイ …（知らない）

ミユキ …（知らない）

カキタ 二郎さん主演。あ、坂上二郎ね。

マルイ …（やっぱり知らない）

ミユキ …（やっぱり知らない）

カキタ （作り笑顔で）なんでもない。

シモダ 金曜8時だよね。

カキタ 違う…

トミオカ （マルイに）職場のお友達ですか？ ミユキさん。

マルイ ああ、いやいや昔、（ミユキに）ね、

ミユキ ある劇団の、研究生同士で知り合って。

トミオカ へえ。

カキタ 劇団？ どんな劇（やってたの）？

マルイ チェーホフとか。

カキタ ああ。

ミユキ でも演出家の先生に、二人で思い切り反抗して、

マルイ 途中でそこ辞めちゃった。

トミオカ 反抗？

ミユキ 「かもめ」って芝居の稽古中、（マルイに）ね、

マルイ 「私は、台本の役割人形ではありません！」とか言って、

ミユキ 拳銃、先生に突き付けて。

トミオカ え？

ミユキ いや、小道具の。

トミオカ ああ。

マルイ いやいやいや、若かった…

ミユキ うん。二十代前半…

カキタ あら。

シモダ 二十代…俺その頃、金に困ってずっと夜勤やってたな。

トミオカ ああ、そう。

シモダ それで、仕事帰りにこういう夜明け前の空を見て…なんとも言えない気持ちになっ

トミオカ てた…

トミオカ なんとも言えない？

シモダ なんか…罪の意識…？

トミオカ ……

カキタ ……何の罪？

シモダ  
マルイ  
ん?…まあ、いろいろ、  
たとえば?

シモダ  
ミユキ  
：田舎の親に電話して、「オレオレ、今日財布落としちゃってさ、参ったよ」  
ウソついたの?

シモダ  
10万送ってもらった。

マルイ  
：本人が親に、オレオレ詐欺。

ミユキ  
困った自分に、なりすまし。

シモダ  
いや待って。そういうことじゃないな…

カキタ  
どういうことよ?

シモダ  
うん…

：双眼鏡を手に、スガが来る。

トミオカ  
もつと深い、罪悪感…

シモダ  
：そうかな。

トミオカ  
原罪みたいなの…

カキタ  
? え?

トミオカ  
ちょうどいま、一日がリセットされてるような、空白の時間ですよ。

カキタ  
空白?

トミオカ  
空白に包まれて、なんだか自分の原罪感を感じる…

シモダ  
なんか(カッコ)いいね。(カキタに)そういうこと。

カキタ  
? ん?…(マルイを見る)

マルイ  
まあ普通に言うのと、夜明け前の時間って、昨日はもう過ぎ去ってる。でも今日はまだ始まってない。

カキタ  
うん。

マルイ  
人の動きが一瞬止まる。…そんな気分になるって話だけど。

カキタ  
ああ。

トミオカ  
こざかしい人間の蠢く気配が消える。清潔な空白です。

シモダ  
(カッコ)いいね。

スガ  
(双眼鏡を見ながら)街はいま、清潔な青の単色に染まっております。

マルイ  
朝日が見たいって言うよりも、この時間が好きなんだよね。

カキタ  
：変な人たち。

：ヒロシが来る。

ヒロシ  
どうも。

シモダ  
懐エロくん。

トミオカ  
来たんだ。

ヒロシ  
うん。

スガ  
なんか売れた?

ヒロシ  
漫画、「いけない!ルナ先生」

スガ  
おお。

シモダ  
懐かしい。

カキタ  
なにそれ?「いけない」?

男性陣 「ルナ先生」

カキタ 知らない。

トミオカ 女子大生のルナちゃんが、

ヒロシ ダメな中学生、わたるくんは、

スガ 体を張って個人レッスン。

カキタ ……しようもな。

シモダ 名作だよ。

ヒロシ 数学が苦手なわたるくんは、分数教えたりするんです。

スガ それ読んだ。下着で、分数の仕組みをレッスン。

ヒロシ そう。ルナちゃんもう、名台詞。

トミオカ お？

ヒロシ (スガに)「わたるくん」

スガ 「はい」

ヒロシ 「分母がパンティーで、分子がブラジャーよ」

スガ 「え？」

マルイ なに言ってるんだよ。

ヒロシ 「同じパンティーどうしはそのまま、左右のブラどうしをたしたりひいたりすれ

ばいいの」

スガ 「なるほど」

トミオカ おお。

シモダ 名台詞。

マルイ よく分かんない。

ミユキ 左右のブラどうし？

マルイ どういうこと？

ヒロシ パンティーは5のままで、(ブラの)左は3、右は1とか。

マル・ミュ ……ん？

ヒロシ ブラだけ変えるの。

スガ マンガの絵で見なきゃ、ちよつとアレ(分かりにくい)だね。

ヒロシ だから、(シモダの股間あたりを指し)5分の、

シモダ (左胸を触り)3。

ヒロシ 5分の、

シモダ (右胸を触り)1。

ヒロシ ブラだけ足して、

シモダ 3+1は、

男性陣 5分の4。

マル・ミュ ああ…

カキタ (挙手)はい。

ヒロシ はい。

カキタ 話、変えていい？

ヒロシ え。

カキタ 変えさせて。名台詞と言えば、チエーホフじゃない？（マルイに）なんかない？  
マルイ え、名台詞？

カキタ うん。

マルイ ああ：

ミュキ 「人生は、いまましい罫だ」

カキタ は？

ミュキ 生きる理由を探しても、見付からないまま死んでいく、みたいな意味。

カキタ え：

マルイ けっこう暗いよね。

ミュキ うん。

マルイ でもアレよかったな。：「すでに生きてしまった一つの人生が下書きで、」

ミュキ 「もう一つのほうが清書だったらねえ」

トミオカ ：もう一回人生を、清書でやり直せたらってこと？

マルイ そう。

シモダ ネガティブ。下書きを書き散らかして、みんな死んでいく…？

ミュキ そうね。

シモダ やだあ。

カキタ だけど、チエーホフの時代とか、寿命いまより短いよね？ 人生50年？

マルイ え？

カキタ いや、その台詞の、私なりの解釈：長く生きてれば、下書きだけじゃなくなるかも

シモダ しれない：

シモダ え？

カキタ これから先も生きてれば、ちょっとはあなた（シモダ）も清書ができるんじゃない

シモダ か：

シモダ そうなの？

カキタ 人生を折り返すアラフィフからは、

シモダ 清書ができる…？

カキタ うん。

シモダ ポジティブ：

カキタ （マルイに）この解釈、どう？

マルイ ：ちよつと、

ミュキ 無理くり？

ヒロシ 強引ですよ。

スガ かな。

マルイ ：さっきの分数の方が強引でしょつ。

トミオカ （外を見て）あ、来た。

セオ セオが来る。

セオ ：いや、一応間に合いました。

トミオカ うん。ギリギリ日の出前。

セオ （後ろを指し）日の出、方角こつちですよね？

トミオカ うん。  
セオ なんか、迫りくる朝日から逃げるみたいに、飛ばしてきました。  
トミオカ 朝日から逃げる…

セオ はい。

スガ いいね…

マルイ (セオに) お疲れ様。

セオ どうも。

マルイ ビールの後も、配達したの？

セオ ああ、またコンビニで、日用品を。

マルイ 日用品？

ミュキ なに？

セオ トイレットペーパー。

ミュキ …切らしたのね。

ヒロシ 「夕陽に向かって走れ」って、あったよね？

トミオカ 映画？

ヒロシ うん。その逆だ。朝日から逃げる。

トミオカ ああ。

スガ もう日が昇るのか、残念だ。

トミオカ 残念だ。

セオ …残念？

トミオカ うん。

セオ ?

スガ 日が昇ると、奴らがわらわら現れる。

シモダ 奴ら？

トミオカ ペット、連れ回して歩いたり、

ヒロシ ぜえぜえしながらジョギングしたり、

スガ 野蛮で不潔な人間が。

シモダ ああ(なるほど)。

カキタ なにその言い方、

セオ 何の話？

マルイ (トミオカに) …走っちゃおう？

トミオカ ?

マルイ 青春ドラマみたいに、走っちゃおう？

トミオカ ……

カキタ ?

トミオカ 「朝日と逆向きに走れ」…

マルイ そう。

スガ …走りますか。

ミュキ (日の出の方角を見て) 日が昇るぞおつ。

トミオカ、スガ、マルイ、ミュキ、ヒロシ、シモダ、

日の出と反対の方角に、走り去る。  
カキタとセオも（首を傾げつつ）走り去る。  
暗転。